

## 【書評】

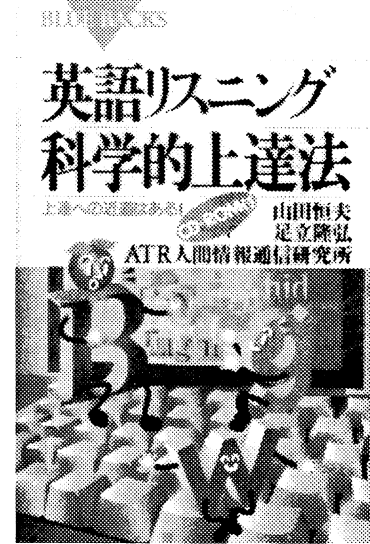
## 書評

山田恒夫/足立隆弘  
ATR人間情報通信研究所

## 英語リスニング科学的上達法

講談社 ブルーボックスB1206  
ISBN4-06-257206-0 (科)

評者：東京大学助手 柳田康幸



今回本書の評を書くよう承り、早速ページをめくってみました。すると冒頭に「こんな経験ありませんか？」という例がいくつか書いてあり、その中に「英語でプレゼンテーションを行った。発表は練習していたのでうまくいったが、質問が何を言っているのかさっぱりわからなかった」というケースが挙げられている。評者もまさにそんな経験を持つ一人であり、なるほど、リスニングの大切さはこんな場面で現れてくるのかと苦笑いした。こんな評者が本書の評を行うなど恐れ多いが、あくまで「もっと英語でうまくコミュニケーションできるようになりたい一人の読者」としての感想を書かせていただく。

さて、本書は英語学習における基礎であると同時に、多くの日本人にとって英語によるコミュニケーション能力を向上させる鍵である「リスニング」に関して、トレーニングの方法とそれをより効果的に行うためのバックグラウンドの知識について記述した一冊である。英語および英会話に関するhow to本は星の数ほど存在するが、本書は場当たりのhow toではなく、著者らの研究成果を含めた学術的な知識、すなわち心理学、音響学、教育学などに関する「科学的に裏付けされた」知見が豊富にバランスよく織り込まれている点が特徴的である。

さらに本書の最大の特徴は、CD-ROMが添付されておりネイティブスピーカの発声事例が豊富に収録されていることである。本書の中にも記されている通り、活字の本を読むだけでリスニングの学習ができるわけではない。すなわち、発音記号を眺めるだけでは「知識」としてはわかっ

ても、自分の体験としては修得できないのである。本書では、従来のテープなどによる学習から一步進んで、パソコンとCD-ROMを使用することによってインタラクティブに自分のペースで学習を行うことができるように配慮されている。また、CD-ROMには音声、ビデオ、図、テキストなど様々な形態の情報が効果的に統合されており、いろいろな角度から理解を深めることができるような工夫が施されている。

本書は4部構成となっている。第1部「さあ、はじめよう！」は本書の導入部であり、第1章「なぜリスニング？」では英語によるコミュニケーションの中でのリスニングの重要性について述べられている。第2章「体験！ マルチメディア実践編」には付属CD-ROMの使い方と内容の概説が記載されている。ここだけ読むとまるでCD-ROM収録ソフトのマニュアルのようでもあり、本書の付属CD-ROMは決して「おまけ」ではないことがうかがえる。つまり、本書においては活字による情報とCD-ROMに収められた各種情報が一体となって効果を発揮するのである。さらに、インターネットに接続できる環境では、Webサーバへアクセスして公開実験に参加できる仕組みが用意されており、これはもはや単なる書籍の枠を越えた新しい試みであると言える。

第2部「対象を知る」では、英語の特徴を日本語と対比しながら解説している。英語に関する知識をわかりやすく解説することにより、実践的学習の効果を引き出すことを狙っている。ここでは、第3章「英語の音韻」(母音・

子音など)、第4章「英語の音節」(母音と子音の組み合わせ及び状況による変化など)、第5章「英語の韻律」(アクセント、リズム、イントネーションなど)に関して説明が行われている。

第3部「われわれの能力を知る」では、リスニングに関する生理学的、音響学的、心理学的知見が解説されている。普通の本として読んでもここに紹介されている知見は興味深いものであり、これらの分野へのイントロダクションとしても活用できる。第6章「『リスニング』と『スピーキング』」では、能動性、視覚と聴覚の感覚統合、情報処理の方向性(ボトムアップとトップダウン)、「きくこと」と「話すこと」の関連などについて取り上げている。第7章「音声の物理的・音響的特徴を知る」では母音と子音のスペクトル及びその時間変化などについて解説されている。第8章「『リスニング』の心理的メカニズム」では、著者らの研究成果も含めてリスニングに関する様々な心理学的知見がピックアップされている。

第4部「自分に適した方法を知る」では、リスニング学習の方法について論じられている。第9章「外国語『リスニング』を学習するということ」では学習の全体像について、第10章「『リスニング』学習を促進する条件とは」では効果的な学習を行うための知見について、第11章「さまざまな英語リスニング学習法」では従来の学習法も含めていろいろな学習法や教材の例が紹介されている。

付属CD-ROMは資料編、現象編、実践編で構成され、それぞれ本文と対応した音声などの資料及びテスト・トレーニングプログラムが収録されている。中でも、英語リスニングにおいて日本人が特に苦手とする /r/ と /l/ の区別が重点的に取り上げられており、その聞き分けテストとトレーニングが行えるようになっている。評者は /r/ と /l/ の

聞き分けに関してはそこそこ自信があるつもりであったが、実際にやってみると意外にたくさん間違えてしまう。ただ本の活字の上で発音記号を眺めているのと本物の発音を聞いて実践してみるのでは大違いだと実感させられた。これは実際のネイティブスピーカーに目の前で発音してもらっている訳ではないが効果としては本質的に同じであるという、まさに英語リスニング学習におけるVR体験ではないだろうか。

以上のように、本書には英語のリスニングに関係する基礎知識が簡潔にまとめられていると同時に、トレーニングプログラムを実体験でき、これから先の学習へ向けたポイントまでが示されている。個々のトピックスに関して詳細に記述されているという訳ではないが、リスニング学習という目的へ向けて様々な角度からの情報がバランスよくブレンドされているという印象である。これから英語学習に力を入れようとしている人だけでなく、日頃から何らかのトレーニングを行っている人にとっても、ふとサーベイを行ってみる価値はあるだろう。本書で英語学習に対する自分のスタンスを確認した上で、またそれぞれに適した学習を行っていけばよいのである。なお、本書はブルーバックスの一冊として刊行されており、こうした内容が安価で入手しやすい書籍の形で提供されることは喜ばしいことである。

柳田康幸 (Yasuyuki YANAGIDA)

<yanagida@star.t.u-tokyo.ac.jp>

東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻助手

TEL: 03-3812-2111 ext.6917, FAX: 03-5800-5188

<http://www.star.rcast.u-tokyo.ac.jp/~yanagida/index-j.html>